

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 6 月 7 日 (2007.6.7)

【公開番号】特開 2001-302506 (P2001-302506A)
 【公開日】平成 13 年 10 月 31 日 (2001.10.31)
 【出願番号】特願 2000-120384 (P2000-120384)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/05 (2006.01)
 A 6 1 K 8/00 (2006.01)
 A 6 1 K 8/30 (2006.01)
 A 6 1 P 17/04 (2006.01)
 A 6 1 P 37/08 (2006.01)
 A 6 1 P 39/00 (2006.01)
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 31/05
 A 6 1 K 7/00 W
 A 6 1 K 7/00 C
 A 6 1 P 17/04
 A 6 1 P 37/08
 A 6 1 P 39/00
 A 6 1 P 43/00 1 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 4 月 13 日 (2007.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 アルキルレゾルシノール及びその塩の少なくとも何れかからなる好中球抑制剤。

【請求項 2】 前記アルキルレゾルシノールのアルキル基が、炭素数 1 ~ 20 のアルキル基であることを特徴とする、請求項 1 に記載の好中球抑制剤。

【請求項 3】 前記アルキルレゾルシノールが 4 - n - プチルレゾルシノールであることを特徴とする、請求項 2 に記載の好中球抑制剤。

【請求項 4】 請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載の好中球抑制剤を含有する、抗掻痒用の皮膚外用剤。

【請求項 5】 前記掻痒が、アレルギー性皮膚炎及び透析の少なくとも何れかによる掻痒である、請求項 4 に記載の抗掻痒用の皮膚外用剤。

【請求項 6】 前記好中球抑制剤の含有量が、総量で皮膚外用剤全量に対して 0.001 ~ 10 重量%であることを特徴とする、請求項 4 または 5 に記載の抗掻痒用の皮膚外用剤。

【請求項 7】 化粧料であることを特徴とする、請求項 4 ~ 6 の何れか 1 項に記載の抗掻痒用の皮膚外用剤。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

この様な状況に鑑みて、本発明者らは好中球の活性酸素過剰産生を抑制する手段を求め、鋭意研究努力を重ねた結果、アルキルレゾルシノール及びその塩にその様な作用を見だし、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は以下に示す技術に関するものである。

(1) アルキルレゾルシノール及びその塩の少なくとも何れかからなる好中球抑制剤。

(2) 前記アルキルレゾルシノールのアルキル基が、炭素数 1 ~ 2 0 のアルキル基であることを特徴とする、前記 (1) に記載の好中球抑制剤。

(3) 前記アルキルレゾルシノールが 4 - n - ブチルレゾルシノールであることを特徴とする、前記 (2) に記載の好中球抑制剤。

(4) 前記 (1) ~ (3) の何れかに記載の好中球抑制剤を含有する、抗掻痒用の皮膚外用剤。

(5) 前記掻痒が、アレルギー性皮膚炎及び透析の少なくとも何れかによる掻痒である、前記 (4) に記載の抗掻痒用の皮膚外用剤。

(6) 前記好中球抑制剤の含有量が、総量で皮膚外用剤全量に対して 0 . 0 0 1 ~ 1 0 重量 % であることを特徴とする、前記 (4) または (5) に記載の抗掻痒用の皮膚外用剤。

(7) 化粧品であることを特徴とする、前記 (4) ~ (6) の何れかに記載の抗掻痒用の皮膚外用剤。

以下、本発明について、実施の形態を中心に詳細に説明を加える。